

地震から身を守ろう

震度5弱

- 何かにつかまりたいと感じる。
- 棚の食器や本などが落下する。
- ガスメーターの安全装置が作動しガスが遮断される。
- 地震管制装置付きエレベーターが停止する。
- 液状化現象が発生することがある。



地震の強さと想定される被害

震度6弱

- 立ってられない。
- 固定していない家具の多くが動き、倒れはじめる。
- 窓ガラスや壁タイルが破損する。
- 木造建築の壁にひびが入る。



倒壊など 建物被害が発生

震度6強

- 床をはわないと動けない。
飛ばされることもある。
- 固定していない家具の多くが動き、倒れる。
- 補強されていないブロック塀が崩れる。
- 耐震性の低い木造建築物が倒壊。
- 大きな地割れ・がけ崩れが多発する。
大規模な地すべりが発生する。



最大震度

阪神・淡路大震災
新潟県中越地震
東日本大震災
熊本地震

震度7

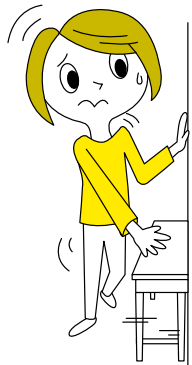
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート建築物が倒壊。
- 耐震性の高い建築物でも、傾くことがある。



家具の 転倒など 屋内被害が 発生

震度5強

- 何かにつかまらなさと歩行できない。
- 棚のものが落下。
テレビが台から落ちることも。
- 揺れによって、自動車の運転が困難に。



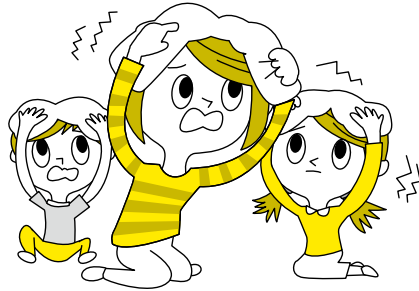
地震から身を守ろう

瞬時の身の守り方

突然の揺れにもすぐ！ 自分の身を守る行動

頭を守る

クッションやかばん、
雑誌など、身近なもので、
しっかり頭を守る。

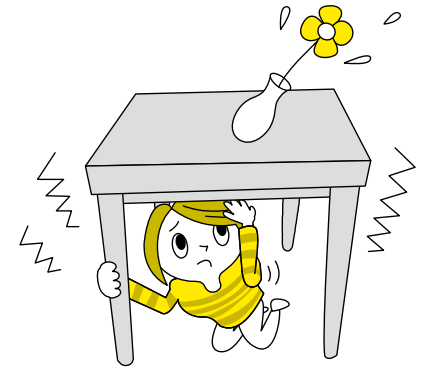


地震を感じたら、下記の手順で避難しよう。



机や テーブルの 下へ入る

家具や照明器具が
落下することがあるので、
机などの下へ入る。



基本行動

参照→P.42~43



地震から身を守ろう

室内での身の守り方

状況
1

台所では…

- 火の始末をする。
- コンロから離れる。
- すぐに安全な場所へ移動する。



状況
2

居間などでは…

- 棚やテレビ、窓ガラスなどから離れる。
- テーブルの下に入る。



状況
3

トイレ・お風呂では…

- お風呂では、洗面器などで頭を守る。
- ドアや窓を開け、避難路を確保する。

揺れが激しい時は、
こんな事でのケガに要注意!



- | | |
|---------|-----------|
| 【トイレ】 | 【お風呂】 |
| ●タンクの落下 | ●鏡やタイルの破損 |
| ●ふたが外れる | |

状況
4

寝室では…

- 枕や布団で頭を守る。
- 全身を寝具でくるむ。
- ベッドと家具の隙間があれば逃げ込む。



地震から身を守ろう

外出先での身の守り方

状況

1

市街地では・・・

- バッグ・上着などで頭を守る。
- 窓ガラスや看板から離れる。
- 転倒しそうなものから離れる。
- 公園や広場など頭上に何も無い場所へ逃げる。



自宅外にいるときは、落下物・転倒物に気をつけよう。



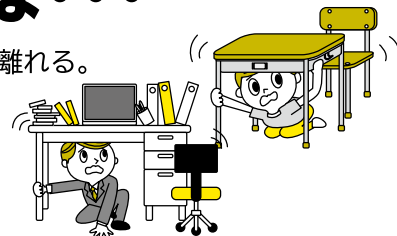
状況

2

学校や会社では・・・

- コピー機や大型キャビネットから離れる。
- 机の下に入る。
- 窓際から離れる。

学校では、先生の指示に従おう。

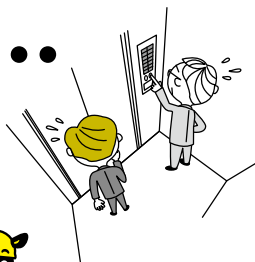


状況

3

エレベーター内では・・・

- 全てのボタンを押し、止まった階で降りる。
- 閉じ込められたら、非常用ボタンで連絡する。
- 救助・復旧まで、落ち着いて待つ。



[車から離れる際の原則]

- エンジンを切る
- キーはつけたまま
- ドアはロックしない

状況

4

車の運転中は・・・

- 急ブレーキをかけず、ハザードランプを点灯させて、ゆっくり停車する。
- 緊急車両の妨げにならないよう、道路の左側に停車する。



地震から身を守ろう

海や山での身の守り方

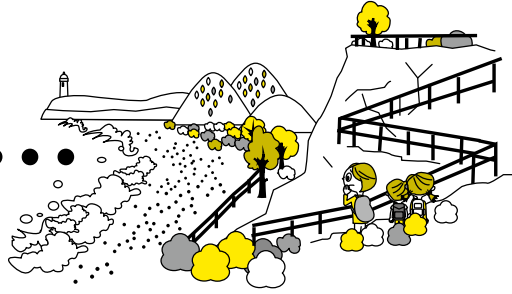
状況
1

海辺では・・・

津波がやってくる。
揺れを感じたら

- すぐに海辺から離れる。
- 高台や高い建物のより高い階へ移動する。

参照→P.18



状況
2

沿岸部の川辺では・・・

- 津波が川上に向かって押し寄せるので、川からなるべく遠くに離れる。

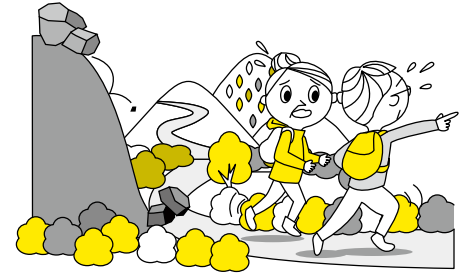


沿岸部の川辺は、相当上流でも津波が押し寄せるおそれがある。広い河川敷や大きな堤防があっても、安全とは言い切れないよ。

状況
3

山では・・・

- 落石・土砂崩れの危険を想定し、がけや傾斜が急な場所から離れる。



【豪雪地帯】

雪崩が発生する危険も・・・

【大雨の後には】

地盤がゆるみ、さらに危険度が増す。

レジャーに出掛けるときの心得



- 事前に情報収集する

宿泊場所の危険性を地域のハザードマップなどで事前に確認する。



- 万が一の備えを

非常食を常備し、その他の防災グッズなどと一緒にバッグに入れておこう。

